

研究主題	子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育
研究の重点	幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実 ～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～
研究の視点	一人一人が1日を通して充実した園生活を送るために

今年度の研究の方向性

～子どもの思い、遊びをつなぐ～

認定こども園に通園する子どもの1日の過ごし方や生活の仕方が近年多様化しています(長時間保育、短時間保育、預かり保育の利用など)。様々な生活様式の子どもたちが集まり、生活をともにしている中で、子どもの思いや遊びが続いていくよう支えるために、どのような援助や環境が必要かについて研究を進めてきました。



今年度の研究から見てきたこと・成果

一人一人の”思い”に寄り添い、遊びの実現に向けての援助・環境構成について事例検討を行ってきました。事例検討を重ね、以下の成果を得ることができました。

◎実践事例「廃材を使った制作」



◎事例から分かってきた成果

・教育時間の中で積み重ねた経験が保育時間や家庭での遊びの広がりにつながる。

一人一人の思いに寄り添いながら保育を展開し、思いを実現するために様々な経験を保育者と一緒に積み重ねていきました。この様々な経験が**遊びの選択肢**を増やすことにつながり、保育時間や家庭の遊びの中でも「またやってみたい」、「こんなこともできるかも」といった遊びの広がりにつながりました。

・一人一人の遊びへの思いが、友だちのやってみたい思いへ広がっていく。

初めは一人の思いで始まった遊びも保育者と一緒につくり上げていく過程や遊んでいる様子を他児も目にしており、他児の「やってみたい」気持ちを促すことにつながりました。ただ模倣するだけでなく、それぞれの思いを保育者が仲立ちしながら対話を重ね、**イメージを共有**しながら遊べるように援助をしていくと個の遊びがクラス遊びへ発展していきました。

・教育時間の中でじっくり遊び込む経験が、自分で遊びを進めていく力につながる。

子どもの「やってみたい」「こんなものをつくりたい」という思いを保育者が汲み取り、つくり方のコツや遊びが広がるためのヒントを知らせながら丁寧に関わってきたことで「自分の力でできた」と感じられる経験を重ねていきました。「**自分でできた**」経験が自信となり、自分で遊びを進めたり、イメージしたものをつくりあげたりする姿が見られるようになってきました。

◎今年度の研究から考えられる仮説



次年度に向けて

今年度の研究から一人一人の思いに寄り添った関わりや援助が子どもたちの育ちや学びにつながっていくことを職員間で共通認識できました。また、教育時間の経験の積み重ねが長時間保育における遊びの充実につながっていることが分かってきました。

次年度も、長時間保育を含めた『幼児期にふさわしい生活』の在り方について、研究アドバイザーや市立幼稚園と連携しながら研究を進め、学びを発信していきたいと思います。